

呉錦堂を語る会通信

NO.11 Sep. 2013

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34

橋 雄三 方「呉錦堂を語る会」

Tel. 078-911-1671

編集 「呉錦堂を語る会通信」編集委員

発行日 2013.9.1



1984年、マスメディアが取り上げた「呉錦堂 中国で“名誉回復”」

当通信10号では、呉錦堂墓の新旧二つの墓表を取り上げ、文化大革命ほかの時代に、呉錦堂墓がどのように扱われてきたかを簡述し、このような冷遇の時代を経て、1984年夏、慈溪県人民政府により新墓表が設置されたことも併せて述べました。この、状況の変化を取り上げた記事が昭和59年11月9日付神戸新聞夕刊に出ておりますのでここに転載いたします。（文責：編集委員 橋雄三）

神戸新聞 (夕刊)

昭和59年(1984年)11月9日

金曜日

華僑の大物、祖国で「復活」

呉錦堂「文革の傷」やっといえる

校名戻り墓修復

お披露目招待の孫ら感無量

中国・浙江省



呉錦堂氏

在日華僑史上、例のない大物で、神戸を拠点に活躍した呉錦堂（一八五五・一九二六）がこのほど祖国中国で「名誉回復」した。社会、教育事業で祖国に多大な貢献をしながら、文化大革命などの影響で冷遇されていたが、荒れ果てていた壮大な墓が修復され、創立した学校名にも「錦堂」の名が復活。近代

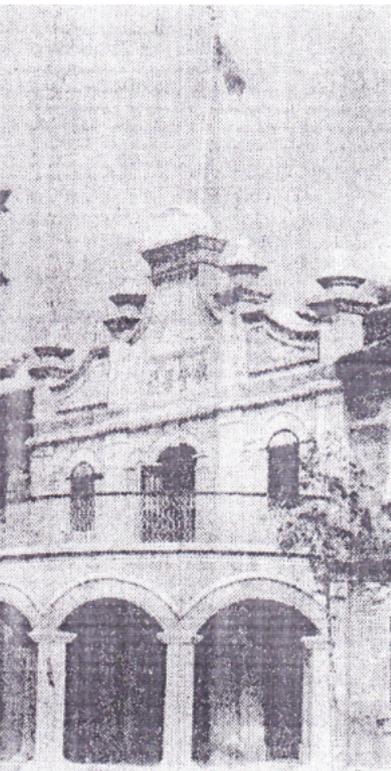
化を急ぐ中国が華僑の存在を再評価し、その具体化第一陣として呉錦堂復活を打ち出したらしく、お披露目に招待された神戸在住の孫らは、よみがえった祖父の足跡を感無量で振り返っている。

呉錦堂が正式に「名誉回復」したのは、先月十五日。日本から孫の大学教授伯瑞さん（六五）
〓京都市東山区〓と、自営業伯瑄さん（五三）
〓神戸市東灘区

〓が招待され、郷里の浙江省慈溪県で盛大に行われた。

「名誉回復」の具体策の舞台として中国側が用意していたのは、呉錦堂が明治四十年に創設した学校と壮大な墓だった。学校は、小、中学生を対象に

「錦堂学校」の名でスタート。周辺の広大な農地もすべて買収し、桑園などを農民に奨励、その収益金で運営。授業料をまったくとらない画期的なシステムだった。



「錦堂」の名が鮮やかな朱文字でよみがえった「慈溪錦堂師範学校」
=中国浙江省慈溪県東山頭で

しかし、革命後は「慈溪師範学校」と改名され、呉錦堂の名が完全に消し去られたが、今回「慈溪錦堂師範学校」と再度改名され、学校の規模も拡充される方針となった。

なお、マイクロフィルムからの印刷で読みづらいので、文字のみ入力し直しました。それに伴いレイアウトが多少変わっておりますがご容赦ねがいます。

(昭和59年11月9日付神戸新聞夕刊 前頁の続き)

(前頁より続く)

また、治水のために自らが私財を投じて造った巨大な人造湖の一つ白洋湖畔にあった墓は、華僑が冷遇された文化大革命当時、故意に破壊されて荒れ果てていたが、数千平方メートルに及ぶ敷地が整備され、専門の墓守まで確保されていた。

メイン行事となった「錦堂師範学校校名恢復大会」には、慈溪県人民政府の最高幹部ら約五百人が出席。「祖国愛に燃え、故郷の教育事業に尽くした秀人」「愛国華僑」「愛国壮挙」といった熱っぽいあいさつが繰り返された。

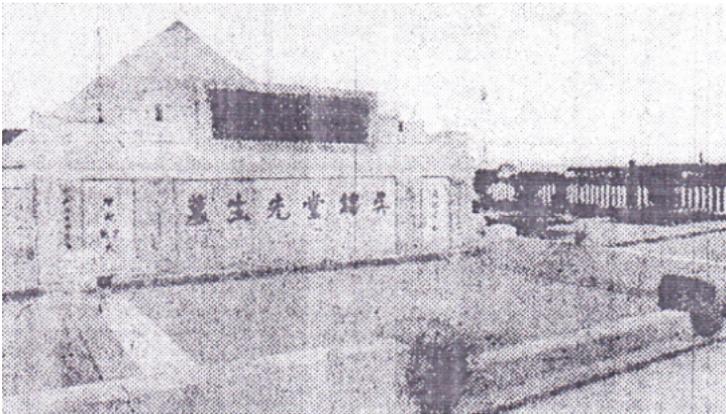
伯瑄さんは「あまりの歓迎ぶりに驚いた。沿道には何にもわたって歓迎の人波が続いていた。祖父の偉大さは耳にしていたが、それを目のあたりにし、感無量だった。中国人は、井戸の水を飲む時は、掘った人への恩を忘れないというのが本当で

す」と興奮がまださめない様子だ。

一層高まる祖国愛

陳徳仁・神戸華僑歴史博物館館長の話 呉錦堂は、祖国で天災があれば金、米を送るなど、昔から中国で高い評価を受けていた。しかし、文革時代は、華僑全体が「走資派」として冷遇され、祖国に残

美しく修復された呉錦堂の墓
|| 同県鳴鶴で



高まるのではないか。

呉錦堂

在日華僑最大の豪商。三十一歳で来日。五年後、神戸に拠点を移して本格的な貿易商となり、優れた商才で、巨額の富を築き、一時は川崎財閥と並ぶ資産を誇った。祖国への資金援助はばく大な額に上り、神戸市垂水区でも広大な農地を開拓するなど社会事業家としても有名。神戸にゆかりの深い中国革命の父、孫文(中山)の陰のスポンサーとしても知られ、近く「孫中山記念館」として開

る親族らもひどい目に遭った。今回のようなケースは、文革後初めてのこと。中国は今、近代化と日本などとの友好関係向上のため、華僑を再評価し始めており、呉錦堂の「復活」はその具体化の象徴だ。賢明なやり方だろう。文革時、故国に失望した華僑も多かったが、これで、心のわだかまりが消え、祖国愛が一層

落穂ひろい その一 まず最初は、呉錦堂が創設した学校の正面玄関上部にある朱文字の「錦堂学校」の表示。この11号の



2008年5月、橘撮影

新聞記事中に写真があるが、白黒の上、文字が不鮮明なので、ここに改めて取り上げた。

その二 右上の写真は、神戸華僑歴史博物館所蔵の陳徳仁コレクションに含まれる資料である。撮影日時は不明。墓から白洋湖を望んだ写真は珍しい。それに、白洋湖を背にし、煙草を吸いながら一休みしている網代笠の村人に趣きがある。



その三 当通信9号2頁に出てくる《呉公墓荘に掛かる三面の扁額》の残りの一面。下の写真、慈溪へ送る前の「熱心公益」と呉氏。

